

媒体各位 書評ご担当者様

2014年6月吉日  
株式会社有楽出版社 編集部



## 好奇心旺盛な大人に贈る<知的冒険の書> 大人の探検シリーズ第1弾！ 「大人の探検 古墳」発売のお知らせ

貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。このたび実業之日本社グループ・株式会社有楽出版社（東京・京橋）では新刊書籍「大人の探検 古墳」監修／大塚初重（明治大学名誉教授）を6月28日に株式会社実業之日本社（東京・京橋）より発売いたしますので、お知らせいたします。

### — 文字で旅する日本全国 73 古墳の旅。 —

#### <本書内容>

考古学者・大塚初重先生と楽しくめぐる全国73古墳の旅。  
古墳を楽しむポイント満載！ 驚きとロマンの古墳ワールド。  
先生と生徒役の会話で進むから、一緒に旅をしている気分になれる！



「先生！僕に古墳を教えてください！！」  
古代好き編集者、木庭くんが、考古学界の重鎮・大塚初重先生の元を押しかけたことで、2人の旅は始まる。

（木）「先生、古墳と丘の区別がつかないです～」

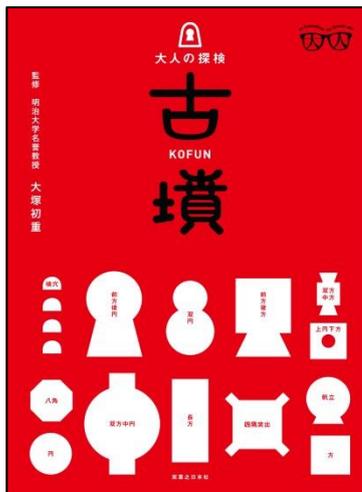
（大）「いやいや、そこはね…」

古墳をより深く楽しむための古墳の見方からディープで熱い発掘の裏話まで、  
足でめぐりたい人にも、ページをめくって古代への旅に出たい人にも楽しい1冊！



## 「70年研究したけど、まだわからない。」

### だから、古墳は面白い」 — 監修・大塚初重



## 『大人の探検 古墳』

□判型：A5 変型 ソフトカバー

□総頁：224 ページ

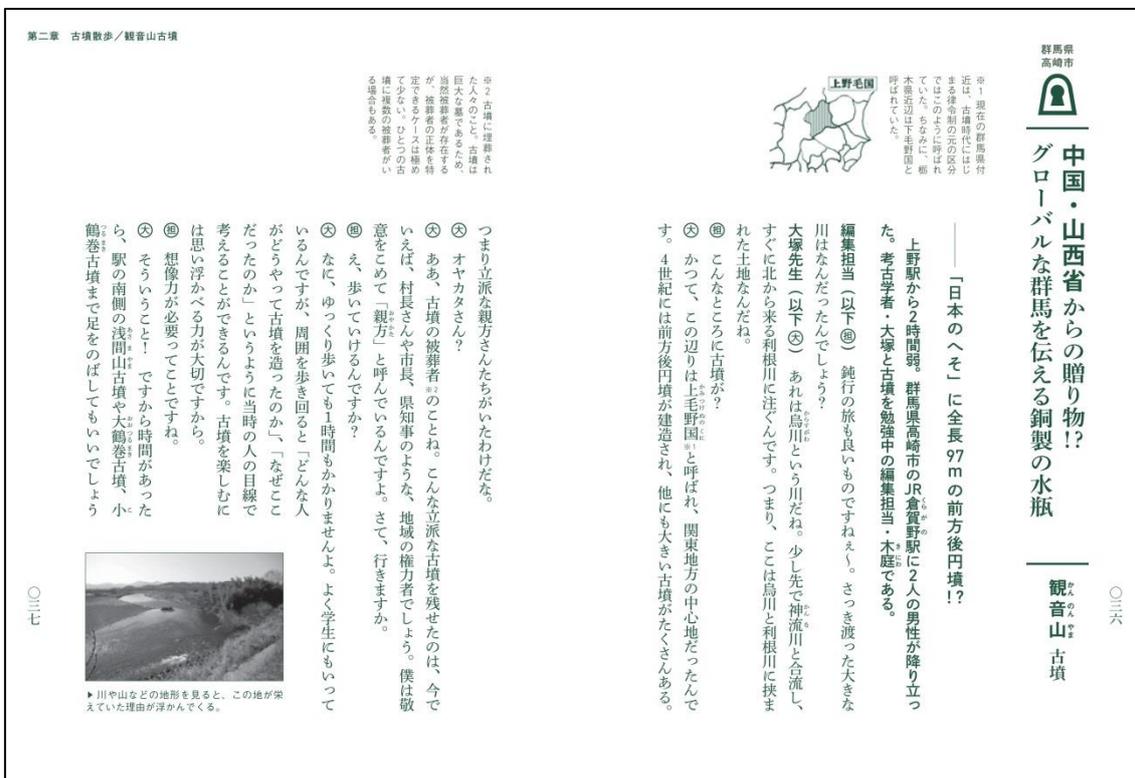
□価格：本体 1600 円+税

□ISBN：978-4-408-59415-6

□発売日：2014/06/28

□発行：有楽出版社

□発売：実業之日本社



▲本文より ©有楽出版社

### ☆大人の探検シリーズ 第2弾

日本の不思議な祭りをめぐる「奇祭」(著：杉岡幸徳) 7月下旬発売決定!

【本書に関するお問い合わせ先】下記までお気軽にご連絡ください。

株式会社有楽出版社 〒104-0031 東京都中央区京橋 3-6-5 木邑ビル 4F

担当：澤口(編集部) TEL:03-3562-0671 FAX:03-3562-0673

Email:sawaguchi@y-ku.com http://y-ku.net

● INTRODUCTION



明治大学名誉教授 大塚初重

〇五

頂天になっていたのかもしれませんが、古墳を掘るのが人間ならば、発掘されたものを分析するのもまた人間です。あいまいで複雑で、時には過ちを犯すこともありま。私たちがどんなに科学を駆使しても、彼らが何を思い、どういう気持ちで暮らしていたのかを知ることは決して簡単ではないのです。

しかし、古墳に葬られているのも同じく人間です。古墳を見るということは、はるか昔の人たちの感情に触れるということです。実際に古墳に行ってみれば、時は流れ

▲力土形埴輪 (提供: 高槻市教育委員会)



〇四

ていても、変わっていないものに必ず出会えるはず。本などで下調べをし、地図を持って汗をかきかき現地へ行って、古墳の周囲を歩き回ってみてください。そのするうちに、きっと古墳や埴輪が語りかけてくれることでしょう。我々の祖先は何と素晴らしいものを造ったのでしょうか。彼らは、古墳築きあつて日本列島に生きていた人々の感情や人生を、誰かた物語っているように思えてなりません。ぜひご自分で古墳(埴輪)を見れば、彼らの生涯の物語に触れてみてください。

第一章 古墳の不思議



4 古墳の終末期には版築(ばんちく)といって、土を棒にょってしっかりと突き固められた土壁を使って造られている。この精緻な造りが古墳を今日まで残しているのだ。

**墳頂**  
古墳で一番高い部分。下に石室があり、被葬者が安置されている場合が多い。

**堀(堀)**  
墳丘の周りをかこむ溝。建造当初、水が入っていなかった。

**墳丘**  
前期の古墳は山の裾野を削って、有効利用して造られている場合もある。

**くびれ部**  
一部の古墳ファンに人気。横を歩き、カーブの美しさを観て楽しむ人もいる。

**造り出し**  
半円や長方形で造られている場合が多い。祭事を行ったとされている。



**陪塚**  
メインの陪葬者の親族や家臣が葬られている。副葬品の場合もある。

**墓石**  
斜面は石でコーティングされ、石垣のようにもなっていることもある。

**土境**  
古墳の周りに少し盛り込まれた土の境が造られている場合もある。

NUMBER OF KOFUN 04

古墳の外見を知りたい!

古墳を構成する要素が 覚えてくれる古代の文化

古墳はさまざまなパーツが組み合わさってできている。単に土を大きく盛った山などではなく、精密に採寸され、規格通りに造られている、れっきとした建造物なのだ。当然のごとく、それぞれの部位には目的があり、その目的を推察すると、当時の古代人の価値観や文化に対する考え方が見えてくる。造る人によってこだわりも強く、使う土の配分などを盛る層ごとに変えていることも。古墳を造った権力者になったつもりで、古墳の部位を見ながら、当時の状況を想像してみよう。

〇二六

